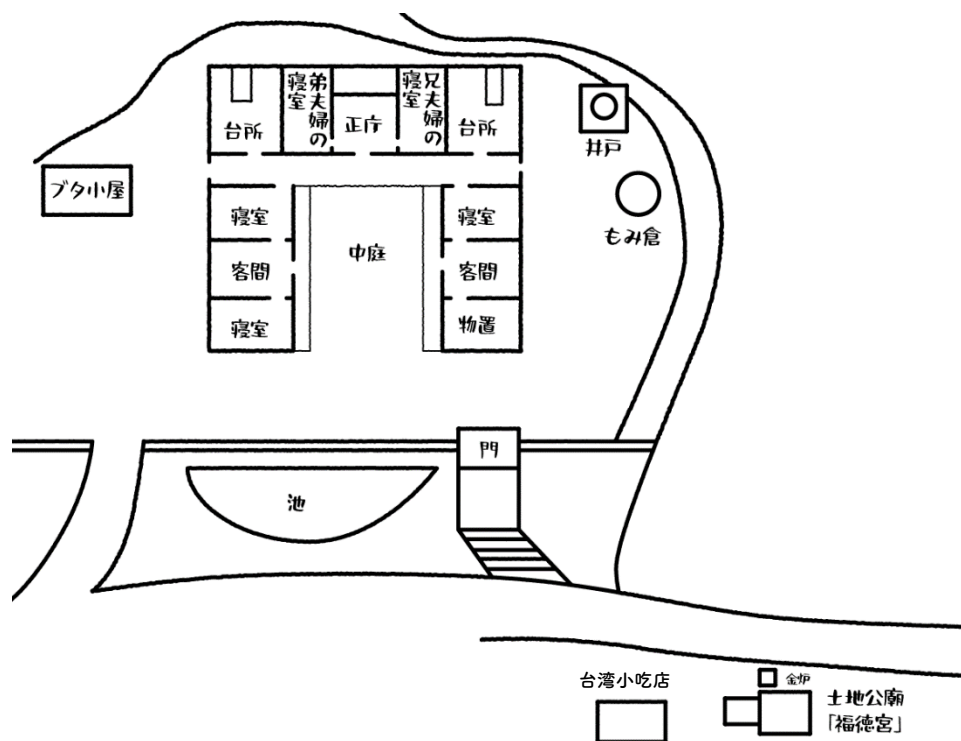


たいわん の う か 台湾 農家

この家は中国大陸南部 福建省 から 移住してきた 漢族の伝統的な農家を 復元したものです。中国南部の 建築様式の流れをくみながら、台湾の 風土に合わせ、熱帯の強い 日差しをさけるため、また 暴風雨の 侵入を防ぐため、壁を厚くし 柱廊で家屋の前面をとりまき、屋根瓦を漆喰で塗り固めるなどの工夫があります。



【台湾の土地公廟：福德宮】

「台湾 農家」の向かいにある建物は「福德宮」という名前の土地公廟です。福德正神土地公と呼ばれる神さまがまつられています。土地公は民間信仰における土地の守護神です。

歴史と住まい：ふるさととのつながり

山がちな土地で ^{しょくりょう}食糧 不足に苦しんでいた中国南部の人びとは、17世紀半ば～19世紀末にかけて、台湾に新しい農地を求めてたくさん移り住みました。この家は、そのような ^{ふっけんけいかんみんぞく}福建系漢民族の伝統的な農家で、1917年に建てられた家をモデルに、1950年代頃の生活を復元しています。

【三合院】

中庭 ^{なかにわ}を中心に三方に棟 ^{さんぽう}が並び、このような建築形式を三合院と呼び、中国南部の流れをくむものです。中央の ^{せいぢやう}正庁は、祖先や ^{どうきやう}道教の神々をまつています。正庁を背にして左手が ^{かぢやう}家長である兄夫婦の部屋、右手が弟夫婦の部屋で、左右から伸びる棟は、成長した子どもたちの部屋や農具置き場として使われます。こうした部屋 ^わ割りは、左を ^{ゆうい}優位とし、^{ちやうよう}長幼の ^{じよ}序（年上と年下の ^{じよれつ}序列や ^{じゆんじよ}順序のこと）を重んじる考え方に基づくもので、屋根の高さにも反映されています。また、赤レンガを ^つ積みあげた壁や、^{すや}素焼きの ^{かわら}瓦を重ねた屋根なども伝統的な三合院の特徴です。



兄と弟、どちらの部屋の屋根が高いかな？正面からチェックしてみましょう。

【新天地で身を守る住まい】

台湾へ移住した人びとは、争いや ^{とうぞく}盗賊から身を守るために、家のまわりにトゲのある竹を植えました。また、窓を小さく、少なくし、さらにぶあつい木の ^{とびら}扉に ^{がんじやう}頑丈なかんぬき（扉が開かないようにする ^{よこぎ}横木）をつけました。



ほかにも、悪霊の侵入 ^{しんにゆう}をふせぐための工夫もあります。探してみましょう。

【風水思想】

古来より中国には、風水という理想的な環境を ^{さだ}定める考え方があります。家屋は南向きに建て、背後に山林をひかえ、前面に池（水）を配すると良いといわれます。家族の健康や、家の ^{はんえい}繁栄を願う人びとは、風水師に ^{ちけい}相談し、^{ほうい}地形や ^{かんでい}方位を鑑定してもらいます。